

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624番地1
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町3丁目8番15号
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム梅本の里では、改めてグループホームらしい家庭的な雰囲気のグループホームを目指して日々取り組んでいます。料理の下ごしらえ・食器洗い・食事の配下膳・洗濯物干し・部屋の掃除など入居者一人ひとり役割を持ってもらい、お互い助け合い支えあって行くことで、生きがいに繋がって行くと考えています。
日々の楽しみをみつける活動としてもアクティビティ委員会を中心として、個別サービスや集団レク、季節行事など利用者の要望を聞きながら、日々楽しみを持って生活して頂けるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かで自然豊かな環境にあり、利用者・職員共に穏やかな時間を過ごしている。母体法人の運営する特別養護老人ホームやケアハウス等が同敷地内にあり、地域における総合福祉施設として、また地域福祉の拠点としての役割を担っている。昨年からは、災害時における緊急避難先にも指定されており、地域住民からの期待は大きい。事業所には、幅広い年齢層・経験年数の職員が揃っており、男性職員の割合も高く、職員間でお互いに協力し合って入居者の支援を行っている様子が伺える。穏やかで静かな雰囲気の中、ゆったりとした時間が流れている様子が印象的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 梅本の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 佐伯 誠治

評価完了日 平成 27 年 10 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念を基に、グループホームの理念「利用者と共に笑い、家族と共に歩み、地域と共に支え合う」がある。会議や申し送り等で情報を共有し、理念に基づく活動ができるよう検討し、個々に実践に向けて努力している。また、職員が一日一回は目にするようにグループホーム各階に理念を掲示し、環境作りに努めると共に意識付けしている。	
			(外部評価) 10年程前に、当時の職員が意見を出し合って決めた理念を、2ユニット共通の事業所理念として掲げている。今後もこの理念に基づき支援を実践していく予定であるため、特に理念の見直し等は行っていないが、日々の細かな留意点や目標にあたるものとしては、月に1回の職員会議内で意見交換をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事や施設行事等の交流を通じて、地域の一員としての繋がりを大切にしている。また、定期的に地域の子供達と交流を行い、相互に有効な関わりができています。	
			(外部評価) 法人全体で実施している夏祭りは、地域住民にとっても恒例行事となっており、近くの駐屯地から自衛隊の方が参加してくれたり、地域のボランティアが屋台を出してくれる等、毎年盛大に開催されている。また、近くの幼稚園や小学校の子供達との交流が盛んで、中学生の職業体験や専門学校や高校からの実習生受け入れにも積極的である。行政職員の実習も受け入れており、外部の方が来訪する機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の高齢者の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域行事や施設行事、地域の子供達との交流を通じて、認知症高齢者の理解・支援方法を理解してもらえよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者の状況・写真を基に事業所の活動 内容・研修等の報告をしている。 また、様々な参加者からのご意見・ご要望があったものを、 全職員へ伝えると共に、実際のサービス向上に結び付くよう 努力している。	
			(外部評価) 行政職員、地域包括支援センター職員、民生委員の他、毎回 利用者の家族も参加されており、質問等発言も多い。終末期 の支援や事業所での看取りについて、また災害時の避難方法 等、日頃不安に感じている事柄について質問されることが多 い。また、会議前には事業所内で家族も一緒に食事をする催 しを企画したり、会議後は家族同士で話す時間を取るなど、 運営推進会議の日を有効に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に一回運営推進会議を行い、事業所の実情やサービ スの取組みを報告している。また、市町村からの連絡事項を 確認している。 また、運営上の相談・指導・助言は、電話であるが指示をい ただいたり、市の職員実習の受け入れもあり、事業所のご理	
			(外部評価) 法人が大きく、これまでの豊富な活動実績があるため、細か な事柄については法人内で相談して済ませることも多いが、 必要に応じて事業所の管理者が、行政の担当課へ問い合わせ る等して連携を取っている。また、行政職員の福祉施設実習 の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者及び全ての職員は、外部研修等で身体拘束の理解を深 め、身体拘束ゼロを基本に、日々のケア・その人らしい豊か な生活を支援している。	
			(外部評価) 法人全体を挙げて、身体拘束ゼロを目指しており、適切な職 員配置により、拘束を行わずに済む支援方法を実施してい る。昨年、事業所横の中庭になっていた敷地に施設が増設さ れ、出入り口が変更になった都合もあり、外へ出る扉は電子 ロックで施錠されている。外へ出ようとしている利用者に対 しては、職員が付き添って開錠し、敷地内を軽く散歩をした り、職員の買い物に同行する等、気分転換をしてもらってい る。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は、事業所での虐待を見過ごさないように、日々利用者の心身状態の観察に努めている。 虐待についての外部研修に参加し、職員会議等で研修報告することで情報共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、学ぶ機会を持つよう努力しているが、全職員には浸透・徹底できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際は、利用者・ご家族にご理解・納得して頂けるよう、十分な説明を行っている。 改定等の際は、文章での連絡も行い、再度ご記名・捺印をいただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や行事への参加の際に、意見交換の時間をとり、ご意見・ご要望が運営に反映できるように努力している。 玄関には意見箱の設置しているが、活用されていない。 その為、面会の際利用者の状況を伝え、気軽に話が出来るとような関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議へ家族にも積極的に参加してもらい、活発に意見をもらっている。また、会議後に家族同士でコミュニケーションを図る時間も設けており、事業所への要望等を伝えやすい環境整備を心掛けている。面会簿には時間や氏名の記入欄の他、その他欄を設けて意見や要望等を書いてもらうようにしている。面会時には、利用者と共に職員も同席する時間を作るようにしており、日頃の様子を伝えたり、不安なことはないか確認する機会にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は定期的に個人面談を行い、ご意見や提案を聞く機会をもっている。 また管理者は、リーダーと方向性の確認・職員の意見や提案等の情報を共有している。また、職員が発言しやすい環境作りに努めると共に、職員と積極的にコミュニケーションを図り、些細な意見や提案が反映できるよう努力している。 (外部評価) 法人全体で、3～4か月に一度、統括施設長が全職員を対象に個人面談を実施している。日頃の業務の中ではあまり接点のない、統括施設長と話ができる貴重な機会になっている。事業所内で購入したい備品や法人全体の社員旅行について等、職員が話したい内容を自由に伝えられる面談になっており、必要に応じて、事業所の管理者に面談内容がフィードバックされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者が、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況の把握ができるよう、定期的な個人面談等で必ず報告している。やりがいや向上心を持って働けるような環境を整えるとともに、研修案内を配布し興味のある研修に積極的に参加することで常にスキルアップを目指し、職員のモチベーションが保てるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者が主となり、研修委員会を発足している。各部署の職員が研修委員会に入っており、代表者や管理者が研修内容を決めるのではなく、職員一人ひとりがどのような研修をしたいのか、必要なかを考え実際に実施していく取り組みをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 協会主催の相互研修や中予地区研修、包括主催のケアネット等に積極的に参加し、同業者との交流・情報交換等を行っている。活動を通じて、サービスの質を向上させていけるよう努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントの情報を基に、本人やご家族と話し合い、要望に応えるサービスの提供ができるよう努めている。様々な活動を通じて、本人が安心して生活できる環境作りや、他利用者との相互関係が深められるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 些細な事でも家族に連絡し、ホームでの生活状況を伝えている。気持ちよく面会に来てもらえるように、雰囲気作りとして面会時には、笑顔で挨拶に心がけ帰られるときには「ありがとうございます」と感謝の言葉を忘れず伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントの情報を基に、本人やご家族は何を必要としているのかを、職員同士で話し合うように努めている。話し合った支援方法を本人やご家族に確認し、実践するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者のできる事、できない事を見極めながら、その人に合った個別サービスを行っている。また、一部の利用者ではあるが役割があり、誰かの役に立っている、感謝されていると感じやりがいと生きがいに繋がるような雰囲気作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事や家族会の案内はもちろん、毎月グループホーム通信を発行し、利用者の状態・状況を伝えるようにしている。また、面会時には利用者と家族一緒に写真を撮らせてもらい、利用者の部屋に飾らせてもらっている。利用者にご家族を感じてもらい、いつまでも絆を大切にできるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や親戚との再会、また顔馴染みの場所やお店にできるだけ出向き、信頼関係が途切えないように支援している。 (外部評価) 県内ではあるが遠方の市町から入居されている利用者の中には、体力的な理由から馴染みの場所等へあまり行くことができていない方もいる。外出が可能な利用者については、馴染みの化粧品を買いに出掛けたり、家族のお見舞いに出掛ける等、これまでの関係を継続していけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が孤立しないように、アクティビティ活動を通じて、利用者同士の交流につなげ、楽しい気持ちとつながりを大切にしている。 また、利用者の誕生会にできるだけ参加していただき、ユニットが違う利用者との交流を大切にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人やご家族の相談にのったり、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話を基に、利用者の希望や意向に沿ったサービスの提供ができるように努めている。 意思疎通が難しい方に対しては、ご家族の意見を参考に、本人の尊厳を傷つけないようにサービスを行っている。 (外部評価) 意思疎通が難しい利用者もいるが、日頃の様子や家族から聞き取った情報等により、出来る限り本人の意向に沿った支援ができるよう心掛けている。入浴を拒否される方への対応についても、強制的にならないよう、声掛けのタイミングや対応する職員を変えてみたり、足浴を勧めてみる等の工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時の本人やご家族からのバックグラウンドを基に、日常の会話、ご家族との会話で、これまでの生活歴や顔馴染みの暮らしの把握に努め、サービスの提供に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態変化の早期発見・早期治療を心掛け、普段からの状態観察・介護記録の確認・コミュニケーション・職員同士の情報共有等により努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の生活状況・心身状態・日常の記録を基に、職員同士での話し合いが中心となっている。 本人やご家族には、ケアプランを基に説明し、ご意見やご要望、アイデアを反映できるように努めている。	
			(外部評価) 介護記録等はすべて、法人全体で共通のシステムにパソコンで入力する形をとっている。1ユニットに1台のパソコンで記録しているため、一人ずつしか入力できない課題はあるものの、日報としてプリントアウトした際の見易さ、後日見直す際の利便性等を感じている。パート職員も含め、全職員がパソコンでの入力に慣れ、システムも使いこなしている様子が伺える。システムを活用することにより、全職員が利用者一人ひとりの情報をきちんと把握しており、家族面会時には日頃の様子を伝えることができる体制が整っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日常の記録や申し送りにおいて、情報を共有しながら、問題点等を検討し、サービスの実践や介護計画に反映できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個別サービスの時間を設け、一人ひとりの要望に沿ったサービスが提供できるように努めている。 また、ご家族へ行事の案内を郵送し、家族とのコミュニケーションの場をなるべく多くつくれるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事や地域の子供たちとのふれあい、併設している事業所に出向き、楽しみのある時間が提供できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 月1回～2回の主治医の往診がある。 状態悪化時の治療については、本人やご家族の意向を大切に、主治医を交えた話し合いができるように努めている。基本的に受診は家族が対応しているが、家族の都合が合わないときには職員が対応し、受診結果などを家族に説明している。</p> <p>(外部評価) 近くの医療機関より訪問診療が月に2回程度あり、入院が必要な時には、その医師からの紹介でスムーズに入院することができる。また、入居前からの主治医に継続してかかっている利用者もあり、家族による通院介助が困難な場合には職員が対応している。週3回の透析が必要な利用者もいるが、病院の送迎車を利用している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 24時間体制で看護師と連携を図っている。 職員会議には看護師も出席し、情報共有に努めている。 また、記録をシステム化することで、いつでも日常の記録が確認でき、状態の把握ができるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時、サマリーで情報交換している。 また、早期退院の希望があっても、入院中の状態が安定してから、主治医の判断により退院が決められている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や状態悪化時に備えての話は運営推進会議等で話し合いを設けている。事業所での看取りを希望するご家族がほとんどではあるが、事業所が提供できるサービスの限界について、本人・ご家族に説明し、理解していただくようにしている。</p> <p>(外部評価) 看取りの体制は整備しているが、事業所で対応できることの限界について家族等へよく説明することで、転所や転院をする利用者が多い。これまでに事業所で最期まで看取った利用者は4名で、あくまでも家族や本人の意向に沿った最期を迎えることができるよう、しっかりと意向を聴き取り、十分な説明を行うよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜間・急変時対応マニュアルを整備し、職員会議で定期的に時間を設けている。 地域の救命救急講習会に参加している。また法人でも、2年に1回救命救急の講習会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人全体で、年2回避難訓練・消火器・火災報知器の設備点検を行っている。 毎回、消防署の方に参加いただいているが、立地条件もあり、地域を交えての訓練は実施できていない。 職員は避難訓練終了後、消火訓練を行っている。 (外部評価) 火災、地震、土砂災害を想定した訓練を実施している。3日間程度の食料品と水の備蓄もしており、昨年からは近隣の地域住民の避難場所として、同法人の隣接する施設が指定されている。避難訓練に地域住民や利用者の家族等の参加はないが、運営推進会議等において訓練実施の報告を行っており、具体的な避難経路や方法について、家族から質問が出ることも多い。	法人全体で大規模な災害訓練を定期的に行っているが、地域住民の避難場所として指定されたことを受け、今後は地域住民と合同の訓練実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を傷つけない声かけをするように心掛けている。 また、プライバシーに配慮したケアはもちろんのこと、個人情報取り扱いに関しては、その都度ご家族の承諾を得るように努めている。 (外部評価) 新人職員が入職した際の研修では、プライバシーの確保や利用者を尊重すること等について、先輩職員が講師となって伝えている。各個室にトイレがありプライバシーは確保されやすいが、アコーディオンカーテンであるため、個室の出入り口をしっかりと閉めるよう職員は気を配っている。また、希望に応じて、同性介護を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 毎月の予定表に、個別サービスの日程を入れ、利用者のご要望に沿える体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿った支援を心掛け、利用者のペースに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院や衣料店、化粧品店への外出等の対応もしている。 重度の方に対しては、日頃から整髪・整容・身だしなみを整える等の支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好に合わせたメニューを取り入れ、食べる楽しみを作っている。 また一部の方ではあるが、簡単な下ごしらえや食器の片付け等を、利用者の心身状態に応じて対応している。 食事は、利用者と一緒に摂り、好き嫌いの把握にも努めている。また、利用者の誕生日には食べたいメニューを事前に聞いて提供し喜ばれている。	
			(外部評価) 事業所の2ユニット分を、調理担当のパート職員がまとめて調理している。利用者に好みを聞きながら職員が献立を考え、法人の栄養士に確認してもらった上で、職員が買い物に出掛けている。買い物には利用者が同行することもある。家庭的な雰囲気を心掛けており、食器や箸は自分専用の物を使っている方もいる。また、利用者や家族の希望がない限り食事介助エプロンは使用していない。きざみ食の利用者も、その日のメニューできざむかどうか、どの程度きざむのかを決めて、臨機応変に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事・水分摂取量を記録すると共に、体調・状態・体重の増減・好きな物・嫌いなもの等の把握に努めている。その日の献立によって、その方に合った食器や食事形態を工夫し、支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシや専用のコップ等は個々に準備していただき、対応している。 一部介助と見守り、声かけのみの方もおり、利用者によって、対応は異なっている。利用者の身体状況に合わせて口腔ケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全利用者トイレで排泄をしている。 排泄委員会を中心に、自立に向けた支援、皮膚の清潔保持、水分摂取等、排泄チェック表を用いながら個々のリズムがつかめるよう努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表をもとに、スタッフ間で随時相談、カンファレンスを実施し、情報を共有することで、職員全員が適切なタイミングでトイレへの誘導ができるように体制を整えている。入居時に比べ、紙パンツでの排泄が減り、トイレでの排泄が可能になる等、改善している利用者も多く、家族にも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の目標を1日1,500～2,000ccとし、多種類の飲み物を準備し、利用者の嗜好に合わせて提供している。また、その中でも乳酸菌飲料・野菜ジュース・食物繊維のある食事等にも心掛けている。 運動への働きかけは、アクティビティ委員会を中心に、毎日の体操や身体を動かすレク活動の充実を図っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には、毎日入浴できる体制としている。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴ボードでの順番制としている。 1日を通して入浴可としても、ほとんどの方が午前中を希望し、入浴している。	
			(外部評価) 浴槽にリフトが設置されているユニットがあり、重度化しても入浴ができるような体制が整備されている。リフト浴でも難しくなった場合には、併設の特別養護老人ホームの特浴を利用することも予定されている。入浴回数等については、利用者の希望に合わせて対応しており、毎日一番風呂に入る利用者もいるが、平均すると週に2～3回入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、無理のない生活、必要最小限の休息ができるように支援している。必要時には昼寝の声かけも行っている。 その日の気候に合わせて、寝具・室温調節、安楽な姿勢等にも配慮するよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、利用者の薬手帳・個人ファイルで、薬の目的や効果、副作用の確認・把握できるように努めている。個人ファイルは、各フロアにて保管し、毎日の誤薬・飲み忘れがないように工夫等もできている。服薬後は、利用者の状態変化・症状の有無に気をつけながら観察し、必要であれば主治医への連絡をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、全利用者では無いが、洗濯・調理・片付け等の役割を設定し、継続できるよう演出している。また、アクティビティ活動・個別サービス・行事等を利用し、楽しみ・気分転換等の時間が提供できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) アクティビティ活動・個別サービスや行事を通じて、戸外に出掛けられる仕組みを作り、支援している。外出や行事等で必要時ご家族にも呼びかけ協力していただいている。 (外部評価) 外出行事の際には、家族の協力も得ながら、職員のシフトを調整し対応している。1～2ヶ月に一度、利用者の希望に合わせて遠方への外出や外食等をマンツーマンの体制で行う個別処遇を実施している。日常的には、施設の敷地内を散歩したり、食料品の買い物と一緒に出掛ける等している。また、利用者の様子や天候を見ながら、ドライブ等の外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の方に関しては、お小遣い程度を所持し、事業所が関与せず自己管理できるようにしている。現在まで、金銭トラブルはなく経過している。また、全利用者1万円程度のお小遣いを、事業所で管理し、個別サービス等の場面で自らの手によって支払いできるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 1名の入居者ではあるが、家族に毎週連絡することが日課となっている。連絡が本人から出来ない方や手紙を書く事が出来ない方などは、職員が郵便物を出したり、グループホーム通信を毎月発行し、利用者の状態・事業所の取り組みを確認していただけるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居心地のよい空間ができるように、常に不快や混乱のないようには配慮しているが、あまり神経質にはならず、ある程度の生活音も大切だと考えている。 しかし、職員の声量や物を取り扱う音、足音、椅子を移動する音等には気を付けている。 季節感としては、一ヶ月ほど前から徐々に利用者の無理がないように一緒に季節の掲示物を作成し掲示している。立地としては、日当たりがよく、窓から自然豊かな景色が一望でき季節を感じる事が出来ている。</p> <p>(外部評価) 事業所内はとても静かな空間であり、利用者、職員共に穏やかに過ごしている。各個室からはベランダへ出ることができ、洗濯物を干したり、外の景色を眺めたりできるようになっている。リビングに設置された大型テレビで、人気のテレビ番組を皆で穏やかに楽しむ姿が印象的であった。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人で過ごす時間を作りたい方は、居室で過ごしていただくことが中心である。利用者同士の交流の場としては、テレビ前にソファを設置したり、交流できる行事を取り入れ、関係性が保てるよう工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所前に使っていた思い入れのある家具を、できる限り継続して使用できるよう配慮している。 箆箆や座椅子、仏壇等があり、少しでも環境を変えない空間づくりの工夫を、ご家族の協力の下努めることができている。</p> <p>(外部評価) フロアの日、個室の日と決めて職員が掃除をしており、利用者も可能な範囲で一緒に行っている。個室の入口には、利用者の希望や状況に合わせて、写真や名前を貼ったり、目印になるよう絵を貼って、部屋が分かりやすくなるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの心身状態に応じて、工夫した環境を設定し、不安や混乱を取り除くことができている。 ADLの低下は徐々にみられているが、一人ひとりの「できること」・「わかること」を職員が把握し、情報共有することで、出来なくなったことに目を向けるのではなく、できることに目を向け自立した生活の実現に取り組んでいる。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624番地1
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町3丁目8番15号
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム梅本の里では、改めてグループホームらしい家庭的な雰囲気のグループホームを目指して日々取り組んでいます。料理の下ごしらえ・食器洗い・食事の配下膳・洗濯物干し・部屋の掃除など入居者一人ひとり役割を持ってもらい、お互い助け合い支えあって行くことで、生きがいに繋がって行くと考えています。
日々の楽しみをみつける活動としてもアクティビティ委員会を中心として、個別サービスや集団レク、季節行事など利用者の要望を聞きながら、日々楽しみを持って生活して頂けるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かで自然豊かな環境にあり、利用者・職員共に穏やかな時間を過ごしている。母体法人の運営する特別養護老人ホームやケアハウス等が同敷地内にあり、地域における総合福祉施設として、また地域福祉の拠点としての役割を担っている。昨年からは、災害時における緊急避難先にも指定されており、地域住民からの期待は大きい。事業所には、幅広い年齢層・経験年数の職員が揃っており、男性職員の割合も高く、職員間でお互いに協力し合って入居者の支援を行っている様子が伺える。穏やかで静かな雰囲気の中、ゆったりとした時間が流れている様子が印象的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 梅本の里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 佐伯 誠治

評価完了日 平成 27 年 10 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念を基に、グループホームの理念「利用者と共に笑い、家族と共に歩み、地域と共に支え合う」がある。会議や申し送り等で情報を共有し、理念に基づく活動ができるよう検討し、個々に実践に向けて努力している。また、職員が一日一回は目にするようにグループホーム各階に理念を掲示し、環境作りに努めると共に意識付けしている。	
			(外部評価) 10年程前に、当時の職員が意見を出し合って決めた理念を、2ユニット共通の事業所理念として掲げている。今後もこの理念に基づき支援を実践していく予定であるため、特に理念の見直し等は行っていないが、日々の細かな留意点や目標にあたるものとしては、月に1回の職員会議内で意見交換をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事や施設行事等の交流を通じて、地域の一員としての繋がりを大切にしている。また、定期的に地域の子供達と交流を行い、相互に有効な関わりができています。	
			(外部評価) 法人全体で実施している夏祭りは、地域住民にとっても恒例行事となっており、近くの駐屯地から自衛隊の方が参加してくれたり、地域のボランティアが屋台を出してくれる等、毎年盛大に開催されている。また、近くの幼稚園や小学校の子供達との交流が盛んで、中学生の職業体験や専門学校や高校からの実習生受け入れにも積極的である。行政職員の実習も受け入れており、外部の方が来訪する機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の高齢者の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域行事や施設行事、地域の子供達との交流を通じて、認知症高齢者の理解・支援方法を理解してもらえよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者の状況・写真を基に事業所の活動内容・研修等の報告をしている。 また、様々な参加者からのご意見・ご要望があったものを、全職員へ伝えると共に、実際のサービス向上に結び付くよう努力している。</p> <p>(外部評価) 行政職員、地域包括支援センター職員、民生委員の他、毎回利用者の家族も参加されており、質問等発言も多い。終末期の支援や事業所での看取りについて、また災害時の避難方法等、日頃不安に感じている事柄について質問されることが多い。また、会議前には事業所内で家族も一緒に食事をする催しを企画したり、会議後は家族同士で話す時間を取るなど、運営推進会議の日を有効に活用している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に一回運営推進会議を行い、事業所の実情やサービスの取組みを報告している。また、市町村からの連絡事項を確認している。 また、運営上の相談・指導・助言は、電話であるが指示をいただいたり、市の職員実習の受け入れもあり、事業所のご理解・ご協力いただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 法人が大きく、これまでの豊富な活動実績があるため、細かい事柄については法人内で相談して済ませることも多いが、必要に応じて事業所の管理者が、行政の担当課へ問い合わせる等して連携を取っている。また、行政職員の福祉施設実習の受け入れも行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 代表者及び全ての職員は、外部研修等で身体拘束の理解を深め、身体拘束ゼロを基本に、日々のケア・その人らしい豊かな生活を支援している。</p> <p>(外部評価) 法人全体を挙げて、身体拘束ゼロを目指しており、適切な職員配置により、拘束を行わずに済む支援方法を実施している。昨年、事業所横の中庭になっていた敷地に施設が増設され、出入り口が変更になった都合もあり、外へ出る扉は電子ロックで施錠されている。外へ出ようとしている利用者に対しては、職員が付き添って開錠し、敷地内を軽く散歩をしたり、職員の買い物に同行する等、気分転換をしてもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は、事業所での虐待を見過ごさないように、日々利用者の心身状態の観察に努めている。虐待についての外部研修に参加し、職員会議等で研修報告することで情報共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、学ぶ機会を持つよう努力しているが、全職員には浸透・徹底できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際は、利用者・ご家族にご理解・納得して頂けるよう、十分な説明を行っている。改定等の際は、文章での連絡も行い、再度ご記名・捺印をいただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や行事への参加の際に、意見交換の時間をとり、ご意見・ご要望が運営に反映できるように努力している。 玄関には意見箱の設置しているが、活用されていない。その為、面会の際利用者の状況を伝え、気軽に話が出来るとような関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議へ家族にも積極的に参加してもらい、活発に意見をもらっている。また、会議後に家族同士でコミュニケーションを図る時間も設けており、事業所への要望等を伝えやすい環境整備を心掛けている。面会簿には時間や氏名の記入欄の他、その他欄を設けて意見や要望等を書いてもらうようにしている。面会時には、利用者と共に職員も同席する時間を作るようにしており、日頃の様子を伝えたり、不安なことはないか確認する機会にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は定期的に個人面談を行い、ご意見や提案を聞く機会をもっている。 また管理者は、リーダーと方向性の確認・職員の意見や提案等の情報を共有している。また、職員が発言しやすい環境作りに努めると共に、職員と積極的にコミュニケーションを図り、些細な意見や提案が反映できるよう努力している。	
			(外部評価) 法人全体で、3～4か月に一度、統括施設長が全職員を対象に個人面談を実施している。日頃の業務の中ではあまり接点のない、統括施設長と話ができる貴重な機会になっている。事業所内で購入したい備品や法人全体の社員旅行について等、職員が話したい内容を自由に伝えられる面談になっており、必要に応じて、事業所の管理者に面談内容がフィードバックされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者が、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況の把握ができるよう、定期的な個人面談等で必ず報告している。 やりがいや向上心を持って働けるような環境を整えるとともに、研修案内を配布し興味のある研修に積極的に参加することで常にスキルアップを目指し、職員のモチベーションが保てるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者が主となり、研修委員会を発足している。各部署の職員が研修委員会に入っており、代表者や管理者が研修内容を決めるのではなく、職員一人ひとりがどのような研修をしたいのか、必要なかを考え実際に実施していく取り組みをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 協会主催の相互研修や中予地区研修、包括主催のケアネット等に積極的に参加し、同業者との交流・情報交換等を行っている。 活動を通じて、サービスの質を向上させていけるよう努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントの情報を基に、本人やご家族と話し合い、要望に応えるサービスの提供ができるよう努めている。 様々な活動を通じて、本人が安心して生活できる環境作りや、他利用者との相互関係が深められるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 些細な事でも家族に連絡し、ホームでの生活状況を伝えている。気持ちよく面会に来てもらえるように、雰囲気作りとして面会時には、笑顔で挨拶に心がけ帰られるときには「ありがとうございます」と感謝の言葉を忘れず伝えている。家族と外出した際など、対応に困ったことや悩みを聞くことがあるので、その時には話しやすいように別室でお話を聞くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントの情報を基に、本人やご家族は何を必要としているのかを、職員同士で話し合うように努めている。話し合った支援方法を本人やご家族に確認し、実践するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者のできる事、できない事を見極めながら、その人に合った個別サービスを行っている。また、一部の利用者ではあるが役割があり、誰かの役に立てている、感謝されていると感じやりがいと生きがいに繋がるような雰囲気作りにも努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事や家族会の案内はもちろん、毎月グループホーム通信を発行し、利用者の状態・状況を伝えるようにしている。また、面会時には利用者と家族一緒に写真を撮らせてもらい、利用者の部屋に飾らせてもらっている。利用者にもいつもご家族を感じてもらい、いつまでも絆を大切にできるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や親戚との再会、また顔馴染みの場所やお店にできるだけ出向き、信頼関係が途切れないように支援している。 (外部評価) 県内ではあるが遠方の市町から入居されている利用者の中には、体力的な理由から馴染みの場所等へあまり行くことができていない方もいる。外出が可能な利用者については、馴染みの化粧品を買いに出掛けたり、家族のお見舞いに出掛ける等、これまでの関係を継続していけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日頃から利用者全員ではないが利用者同士でしりとりをしたり談笑したりと交流の機会が多い。利用者が孤立しないように、アクティビティ活動を通じて、利用者同士の交流につなげ、楽しい気持ちとつながりを大切にしている。 また、利用者の誕生日会にできるだけ参加していただき、ユニットが違う利用者との交流を大切にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人やご家族の相談にのったり、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話を基に、利用者の希望や意向に沿ったサービスの提供ができるように努めている。 意思疎通が難しい方に対しては、ご家族の意見を参考に、本人の尊厳を傷つけないようにサービスを行っている。 (外部評価) 意思疎通が難しい利用者もいるが、日頃の様子や家族から聞き取った情報等により、出来る限り本人の意向に沿った支援ができるよう心掛けている。入浴を拒否される方への対応についても、強制的にならないよう、声掛けのタイミングや対応する職員を変えてみたり、足浴を勧めてみる等の工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時の本人やご家族からのバックグラウンドを基に、日常の会話、ご家族との会話で、これまでの生活歴や顔馴染みの暮らしの把握に努め、サービスの提供に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態変化の早期発見・早期治療を心掛け、普段からの状態観察・介護記録の確認・コミュニケーション・職員同士の情報共有等により努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の生活状況・心身状態・日常の記録を基に、職員同士での話し合いが中心となっている。 本人やご家族には、ケアプランを基に説明し、ご意見やご要望、アイデアを反映できるように努めている。	
			(外部評価) 介護記録等はすべて、法人全体で共通のシステムにパソコンで入力する形をとっている。1ユニットに1台のパソコンで記録しているため、一人ずつしか入力できない課題はあるものの、日報としてプリントアウトした際の見易さ、後日見直す際の利便性等を感じている。パート職員も含め、全職員がパソコンでの入力に慣れ、システムも使いこなしている様子が伺える。システムを活用することにより、全職員が利用者一人ひとりの情報をきちんと把握しており、家族面会時には日頃の様子を伝えることができる体制が整っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日常の記録や申し送りにおいて、情報を共有しながら、問題点等を検討し、サービスの実践や介護計画に反映できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個別サービスの時間を設け、一人ひとりの要望に沿ったサービスが提供できるように努めている。 また、ご家族へ行事の案内を郵送し、家族とのコミュニケーションの場をなるべく多くつくれるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事や地域の子供たちとのふれあい、併設している事業所に出向き、楽しみのある時間が提供できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 月1回～2回の主治医の往診がある。 状態悪化時の治療については、本人やご家族の意向を大切に、主治医を交えた話し合いができるように努めている。基本的に受診は家族が対応しているが、家族の都合が合わないときには職員が対応し、受診結果などを家族に説明している。</p> <p>(外部評価) 近くの医療機関より訪問診療が月に2回程度あり、入院が必要な時には、その医師からの紹介でスムーズに入院することができる。また、入居前からの主治医に継続してかかっている利用者もあり、家族による通院介助が困難な場合には職員が対応している。週3回の透析が必要な利用者もいるが、病院の送迎車を利用している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 24時間体制で看護師と連携を図っている。 職員会議には看護師も出席し、情報共有に努めている。 また、記録をシステム化することで、いつでも日常の記録が確認でき、状態の把握ができるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時、サマリーで情報交換している。 また、早期退院の希望があっても、入院中の状態が安定してから、主治医の判断により退院が決められている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や状態悪化時に備えての話は運営推進会議等で話し合いを設けている。事業所での看取りを希望するご家族がほとんどではあるが、事業所が提供できるサービスの限界について、本人・ご家族に説明し、理解していただくようにしている。</p> <p>(外部評価) 看取りの体制は整備しているが、事業所で対応できることの限界について家族等へよく説明することで、転所や転院をする利用者が多い。これまでに事業所で最期まで看取った利用者は4名で、あくまでも家族や本人の意向に沿った最期を迎えることができるよう、しっかりと意向を聴き取り、十分な説明を行うよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜間・急変時対応マニュアルを整備し、職員会議で定期的に時間を設けている。 地域の救命救急講習会に参加している。また法人でも、2年に1回救命救急の講習会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人全体で、年2回避難訓練・消火器・火災報知器の設備点検を行っている。 毎回、消防署の方に参加いただいているが、立地条件もあり、地域を交えての訓練は実施できていない。 職員は避難訓練終了後、消火訓練を行っている。 (外部評価) 火災、地震、土砂災害を想定した訓練を実施している。3日間程度の食料品と水の備蓄もしており、昨年からは近隣の地域住民の避難場所として、同法人の隣接する施設が指定されている。避難訓練に地域住民や利用者の家族等の参加はないが、運営推進会議等において訓練実施の報告を行っており、具体的な避難経路や方法について、家族から質問が出ることも多い。	法人全体で大規模な災害訓練を定期的に行っているが、地域住民の避難場所として指定されたことを受け、今後は地域住民と合同の訓練実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を傷つけない声かけをするように心掛けている。 また、プライバシーに配慮したケアはもちろんのこと、個人情報取り扱いに関しては、その都度ご家族の承諾を得るように努めている。 (外部評価) 新人職員が入職した際の研修では、プライバシーの確保や利用者を尊重すること等について、先輩職員が講師となって伝えている。各個室にトイレがありプライバシーは確保されやすいが、アコーディオンカーテンであるため、個室の出入り口をしっかりと閉めるよう職員は気を配っている。また、希望に応じて、同性介護を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 毎月の予定表に、個別サービスの日程を入れ、利用者のご要望に沿える体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿った支援を心掛け、利用者のペースに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院や衣料店、化粧品店への外出等の対応もしている。 重度の方に対しては、日頃から整髪・整容・身だしなみを整える等の支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好に合わせたメニューを取り入れ、食べる楽しみを作っている。 また一部の方ではあるが、簡単な下ごしらえや食器の片付け等を、利用者の心身状態に応じて対応している。 食事は、利用者と一緒に摂り、好き嫌いの把握にも努めている。また、利用者の誕生日には食べたいメニューを事前に聞いて提供し喜ばれている。	
			(外部評価) 事業所の2ユニット分を、調理担当のパート職員がまとめて調理している。利用者に好みを聞きながら職員が献立を考え、法人の栄養士に確認してもらった上で、職員が買い物に出掛けている。買い物には利用者が同行することもある。家庭的な雰囲気を心掛けており、食器や箸は自分専用の物を使っている方もいる。また、利用者や家族の希望がない限り食事介助エプロンは使用していない。きざみ食の利用者も、その日のメニューできざむかどうか、どの程度きざむのかを決めて、臨機応変に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事・水分摂取量を記録すると共に、体調・状態・体重の増減・好きな物・嫌いなもの等の把握に努めている。その日の献立によって、その方に合った食器や食事形態を工夫し、支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシや専用のコップ等は個々に準備していただき、対応している。 一部介助と見守り、声かけのみの方もおり、利用者によって、対応は異なっている。利用者の身体状況に合わせて口腔ケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 全利用者トイレで排泄をしている。 排泄委員会を中心に、自立に向けた支援、皮膚の清潔保持、水分摂取等、排泄チェック表を用いながら個々のリズムがつかめるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表をもとに、スタッフ間で随時相談、カンファレンスを実施し、情報を共有することで、職員全員が適切なタイミングでトイレへの誘導ができるように体制を整えている。入居時に比べ、紙パンツでの排泄が減り、トイレでの排泄が可能になる等、改善している利用者も多く、家族にも喜ばれている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分摂取量の目標を1日1,500～2,000ccとし、多種類の飲み物を準備し、利用者の嗜好に合わせて提供している。また、中でも乳酸菌飲料・野菜ジュース・食物繊維のある食事等にも心掛けている。 運動への働きかけは、アクティビティ委員会を中心に、毎日の体操や身体を動かすレク活動の充実を図っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 基本的には、毎日入浴できる体制としているが、毎日入浴を希望されている方はいない。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴ボードでの順番制としている。 1日を通して入浴可としていても、ほとんどの方が午前中を希望し、入浴している。</p> <p>(外部評価) 浴槽にリフトが設置されているユニットがあり、重度化しても入浴ができるような体制が整備されている。リフト浴でも難しくなった場合には、併設の特別養護老人ホームの特浴を利用することも予定されている。入浴回数等については、利用者の希望に合わせて対応しており、毎日一番風呂に入る利用者もいるが、平均すると週に2～3回入浴している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、無理のない生活、必要最小限の休息ができるように支援している。必要時には昼寝の声かけも行っている。 その日の気候に合わせて、寝具・室温調節、安楽な姿勢等にも配慮するよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、利用者の薬手帳・個人ファイルで、薬の目的や効果、副作用の確認・把握できるように努めている。個人ファイルは、各フロアにて保管し、毎日の誤薬・飲み忘れがないように工夫等もできている。服薬後は、利用者の状態変化・症状の有無に気をつけながら観察し、必要であれば主治医への連絡をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、全利用者では無いが、洗濯・調理・片付け等の役割を設定し、継続できるよう演出している。また、アクティビティ活動・個別サービス・行事等を利用し、楽しみ・気分転換等の時間が提供できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) アクティビティ活動・個別サービスや行事を通じて、戸外に出掛けられる仕組みを作り、支援している。外出や行事等で必要時ご家族にも呼びかけ協力していただいている。 (外部評価) 外出行事の際には、家族の協力も得ながら、職員のシフトを調整し対応している。1～2ヶ月に一度、利用者の希望に合わせて遠方への外出や外食等をマンツーマンの体制で行う個別処遇を実施している。日常的には、施設の敷地内を散歩したり、食料品の買い物と一緒に出掛ける等している。また、利用者の様子や天候を見ながら、ドライブ等の外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の方に関しては、お小遣い程度を所持し、事業所が関与せず自己管理できるようにしている。現在まで、金銭トラブルはなく経過している。また、全利用者1万円程度のお小遣いを、事業所で管理し、個別サービス等の場面で自らの手によって支払いできるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 一部利用者であるが要望があれば連絡したり、事業所に荷物が届いた際に送り先の方へ連絡する程度である。手紙は本人からできない方がほとんどの為、遠方のご家族へ職員がお便りを出したり、グループホーム通信を毎月発行し、利用者の状態・事業所の取り組みを確認していただけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居心地のよい空間ができるように、常に不快や混乱のないようには配慮しているが、あまり神経質にはならず、ある程度 の生活音も大切だと考えている。 しかし、職員の声量や物を取り扱う音、足音、椅子を移動する音等には気を付けている。 季節感としては、一ヶ月ほど前から徐々に利用者の無理がないように一緒に季節の掲示物を作成し掲示している。立地としては、日当たりがよく、窓から自然豊かな景色が一望でき季節を感じる事が出来ている。</p> <p>(外部評価) 事業所内はとても静かな空間であり、利用者、職員共に穏やかに過ごしている。各個室からはベランダへ出ることができ、洗濯物を干したり、外の景色を眺めたりできるようになっている。リビングに設置された大型テレビで、人気のテレビ番組を皆で穏やかに楽しむ姿が印象的であった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 一人で過ごす時間を作りたい方は、居室で過ごしていただくことが中心である。利用者同士の交流の場としては、テレビ前にソファを設置したり、交流できる行事を取り入れ、関係性が保てるよう工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所前に使っていた思い入れのある家具を、できる限り継続して使用できるよう配慮している。 箆箆や座椅子、仏壇等があり、少しでも環境を変えない空間づくりの工夫を、ご家族の協力の下努めることができています。</p> <p>(外部評価) フロアの日、個室の日と決めて職員が掃除をしており、利用者も可能な範囲で一緒に行っている。個室の入口には、利用者の希望や状況に合わせて、写真や名前を貼ったり、目印になるよう絵を貼って、部屋が分かりやすくなるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの心身状態に応じて、工夫した環境を設定し、不安や混乱を取り除くことができています。 ADLの低下は徐々にみられているが、一人ひとりの「できること」・「わかること」を職員が把握し、情報共有することで、出来なくなったことに目を向けるのではなく、できることに目を向け自立した生活の実現に取り組んでいる。</p>	